

【令和元年度 研究主題】

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

～授業づくりと集団づくりの視点から考える～



今年度の研究員グループでは、子供達の主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、「授業づくり」「集団づくり」の二つのアプローチから研究を進めました。学んだことを報告します。

主体的・対話的で深い学び

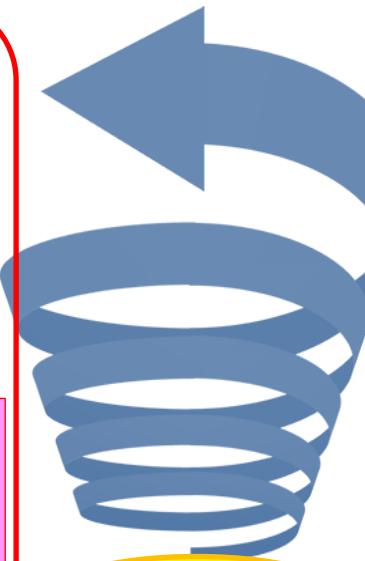


授業づくり

- 学習の展開
- 単元構成
- 子供の思考に沿った発問
- まとめ、振り返りの在り方



を目指す学びの姿として、主体的・対話的に学んだことが、次への学びにつながるものであったり、自己の考えを広げ深めたりするものになっている必要があります。



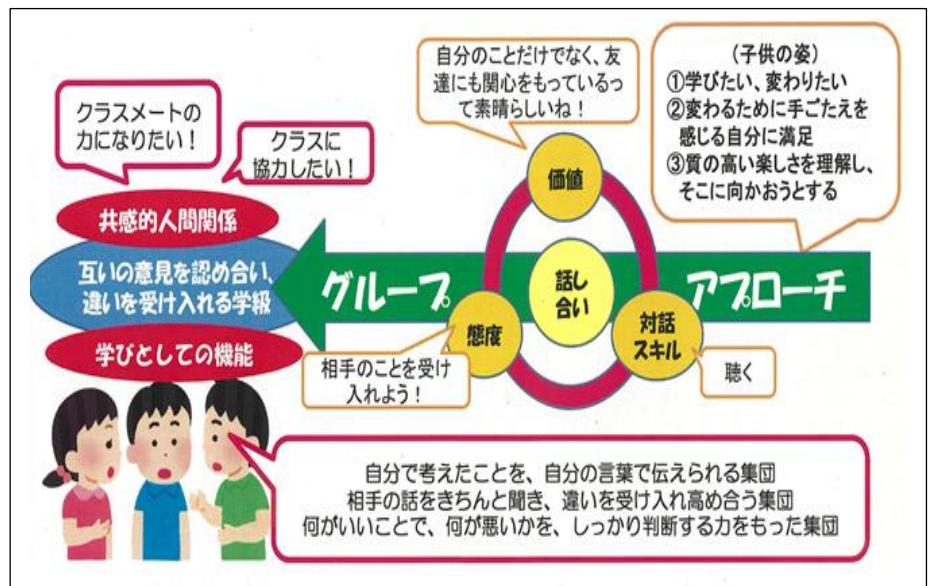
集団づくり

- 生徒指導の3つの機能
 - ・自己存在感を与える
 - ・共感的人間関係を育成する
 - ・自己決定の場を与える
- 人権が尊重される
 - ・人間関係づくり
 - ・環境づくり

子供一人一人が自己存在感を感じられるようにすること、教職員と子供の信頼関係や相互の人間関係作り、子供の自己選択や自己決定を促すといった生徒指導の機能を生かして学習指導の充実を図る必要があります。

教師と子供の信頼関係の下、主体的・対話的で深い学びを実現するためには、授業スキルはもちろんのこと、それが機能する集団づくりが必要であり、さらに両方の手立てを継続的に行なうことが大切であると考えました。互いの意見を認めようとしない集団や疎外感を感じる子供のいる集団では、を目指す学びが成立しないと考えるからです。

集団づくりからは、グループアプローチについて紹介します。グループアプローチとは教師が様々ななかかわり活動（関係作り）の場を用意し、子供を「人」として育むためのアプローチです。エンカウンター、対人関係ゲーム、グループカウンセリングなど様々なものがありますが、今回はその中から「おなやみ相談会」を実践しました。



おなやみ相談会

学習内容	学習活動	指導上の留意点
活動内容の理解（1分）	○おなやみ相談会をしよう	
ルールの確認（1分） ・よい聞き方、話し方	○話し合いのルール、聞き方のルール（うめらいす）を確認する。 ○司会・ホワイトボード係・話す順番を確認する。 (輪番で、パスあり)	聞き方のルール うなずいて 目を見て ラストまで 一生けん命 スマイルで  <small>(愛知県西尾市立吉田小学校の実践を参考に作成)</small>
よい話し方	<ol style="list-style-type: none"> ① 交互に話す。 ② 相手の気持ちを考えて言う。 ③ 相手の言ったことに反応する。 <ul style="list-style-type: none"> ・I（あい）メッセージを使う→「わたしは～だと思うよ。」「僕は～が心配だな。」 ・反対するときも、受け止めてから言う。 →「それも分かるよ、でも～もいいね。」 ④ 時間内は話し続ける。 	よい聞き方 <ol style="list-style-type: none"> ① 最後まで話を聞く。 ② どんな意見も肯定的に受け止める。 ③ 聴いていることを態度で示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・反応しながら聞く。→「あ～！」「いいねえ！」 「うんうん」「ええ！」「おお～！」 ・共感する。→「そうそう」「たしかに」 「わかるわかる」「わたしも」 ・発言した子の言葉を繰り返す。
解決法を考える、出し合う (10分)	○今日のおなやみを知る。 <ol style="list-style-type: none"> 1 解決策を一人で考える。(1分) 2 順番で意見を言っていく。(8分) 3 相談者に一つ決めてもらう。 4 相談者に激励の拍手をする。 5 相談者は今どんな気持ちか話す。(1分) 	<ul style="list-style-type: none"> 最初に、前回のおなやみの解決法でうまくいったかどうかの確認を入れる。 挨拶をしてから始める。 活動中の良い態度を積極的に価値づける。
次のお悩み相談会の確認 (1分)	○次のお悩み相談会の題を知る。 (実践してみて、もう一度話し合うか、新しいおなやみにうつるか、相談者の様子を見て決める。)	話し合い⇒実践⇒振り返りのサイクルを大切にする。
行動のよさを知る（2分）	○よかった一言や態度について先生の話を聞く。	・挨拶をしてから終わる。

まずは「見取る」

おなやみ相談会で発揮された「対話スキル」「共感的な態度」「お互いを大事にしながら自分たちで問題を解決することのよさ」について具体的に言葉がけ（価値づけ）を行い、クラス全体で共有しましょう。価値づけを通して、行動の意義や価値を子供たちに実感させ、意識の変化に繋げていきましょう。

価値・態度・対話スキル

価値づけポイント「対話スキル・態度」

- 1 楽しそうに話し合いに参加していた。
- 2 課題解決のために真剣に考えていた。
- 3 課題解決のために積極的に意見を言った。
- 4 相手の気持ちを考えた言い方をしていた。
- 5 相手の話を分かろうと聞いていた。
- 6 自分と相手の意見に折り合いをつけようとした。
- 7 進んで人のよいところを探そうとした。
- 8 進んで人に感謝しようとした。
- 9 進んで人の役に立とうとした。
- 10 進んで決まったことを守ろうとした。

「見取る」から「つなげる」へ

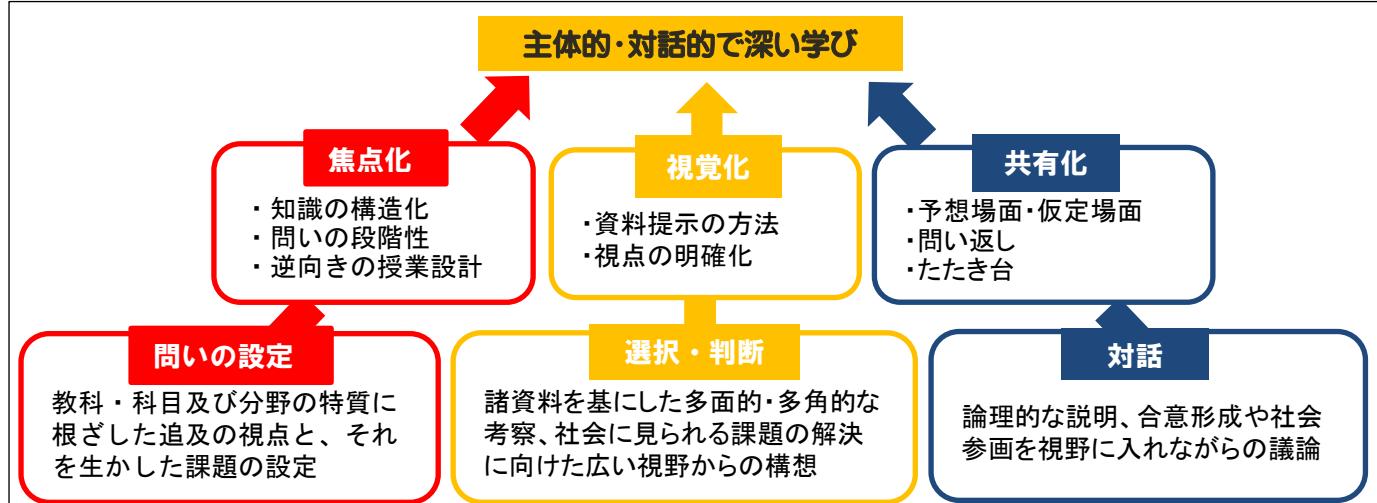
おなやみ相談会を通じて、直接的であっても間接的であっても「思い切ってSOSを出せば、自分が思っている以上に支えてくれる人がいる。」子供たち自身が、そこに気づけることが大事です。子供たちがこのような人間関係を作っていくことができる道筋を作る、そして、そのような人間関係を作るときに必要な力を身に付けさせる、それが教師の役割であり、グループアプローチは、その手段となります。グループアプローチで培った力を積み上げ、子供の価値観を高めていきます。授業でも関係作りの力を育み、「広げていく」という意識をもつことが大切です。

授業づくりからは、社会科を例に挙げた実践を紹介します。

「深い学び」の実現のためには、まず、教科等の本質的な学びを促す授業づくりが大切だと考えます。小学校学習指導要領解説 社会科編では具体的な学習活動として以下の3点が挙げられています。

- ①教科・科目及び分野の特質に根ざした追及の視点と、それを生かした課題の設定
- ②諸資料を基にした多面的・多角的な考察、社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想
- ③論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論

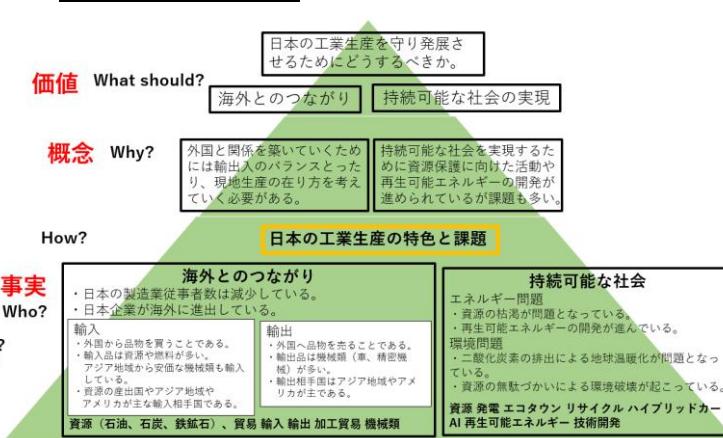
以上の内容を、実際の学習活動で効果的に行うために、「焦点化」「視覚化」「共有化」を授業づくりの視点として持ち、小学校5年生「これから工業生産とわたしたち」の单元で実践したことを紹介します。



焦点化

～目標の達成に向けて、社会的な見方・考え方を明確にし、絞り込み、具体的にすること～

1 単元のねらい、授業のねらいを明確にする 知識の構造図の作成



単元のねらいを達成するためには、知識がどのように積みあがり、ねらいに向かっていくのかを教師が把握することです。

知識の構造図は、問題を見つけることから解決するまでのプロセスにおける子供の理解を促進するため、単元の概念を階層化したものです。

「日本の工業生産を守り発展させるためにどうするべきか」という価値判断をするために、どのような事実や概念を身につけておく必要があるかを考えます。1時間の授業で知識の構造図のどの部分を身につけさせたいのか、考えることが大切です。

2 学習活動や発問を考える 逆向きの授業設計

本時の目標を達成するために、まず、子供にどのようなことを捉えてほしいかを考えます。次に、捉えてほしいことを子供の言葉に落とします。その上で、そのような言葉を引き出すためにはどのような発問が適切であるかを考えます。

発問は、**具体的な発問（事実）**をしてから**抽象的な発問（概念、価値）**をするよう心がけます。

教師の思考の流れ

日本の輸出の特色について品目や相手国を調べることで理解する。

子供の思考の流れ

日本はアジアやアメリカを中心に機械類を多く輸出している。理由は日本は優れた技術で品質の良いものを多く生産しているからである。

日本の工業生産の輸出にはどのような特色があるか

- ① 輸出品目を把握
- ② 輸出の変化をとらえる
- ③ 輸出相手国を把握
- ④ 輸出の特色をまとめる

学習活動
① 事実
② What
③ When
④ Where
⑤ 概念
⑥ 期待する
⑦ 反応

- ① 車、パソコン、機械類、カメラ
- ② 今は機械類が65%あるが昔は機械よりも織維品が多かった。機械類は今になるにつれてだんだん増えてきた。
- ③ 日本の輸出相手国は近くのアジア地域とアメリカ、オーストラリアである。
- ④ 日本はロボットやハイブリッドカーの開発など優れた技術を持っており、そのようなものをアジアやアメリカを中心に輸出している。中小工場ではそこでしかできないものを作り出している。

視覚化

～効果的に視覚的情報を使い、理解を促すこと～

資料を加工する

- ①ブラインド
- ②ダウトをつくる
- ③並べる・比べる
- ④アップにする・ルーズにする
- ⑤フラッシュにする
- ⑥一部を見せる
- ⑦順に提示する

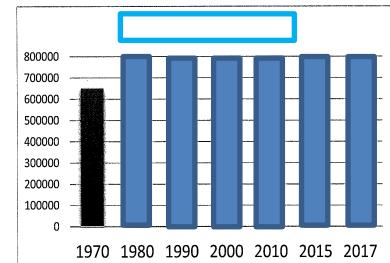


このグラフは「日本の工場の数の変化のグラフです。」
どう変化していると思いますか？

C: 減っている？

C: 1980年代はバブルだから、そこから減る。

C: 工場は減っているのに工業製品の数は増えている？



一部だけが見える状態で資料を提示することで、子供たちは既習事項と関連付けたり、読み取れる情報を探したりしながら関心を持って予想を始めます。子供が十分につぶやいた後、隠してある部分を順に見せながら変化の様子を確認します。その後、昔に比べて身の回りの工業製品の数は増え、性能が上がっていることをつかめます。工場の数は減っているのに工業製品の数は増えているという認知的不協和を起こすことで、「身の回りの工業製品の数は増え性能が上がっているのはなぜか」という疑問が生まれました。

子供に見せたい視点を明確にし、一部を見せたり比較したりすることで自然と思考場面、対話場面が生まれ、問い合わせが作られます。

視覚化する意味

- ①「問い合わせ」を持たせること
- ②「思考」させること
- ③「対話」させること

共有化

～一人の子供の考え方を全員に広げること～

1 話しやすい雰囲気を作る

- ①身近な話題を取り上げる
- ②予想場面、仮定場面を増やす
- ③ライトな共有化からコアな共有化へ

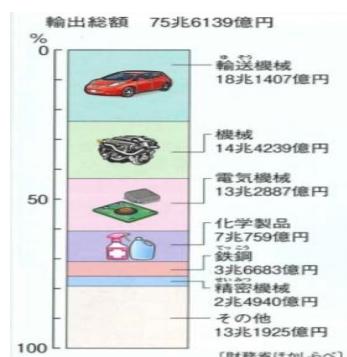


【輸出の特色をとらえる導入場面】

前の時間に日本は資源や原料を輸入していることを学習しました。では、日本は何を輸出しているでしょう。



予想



予想場面では話しやすい雰囲気を作ることが目的であるため、テンポよく多くの予想させることが大切です。その際にはあえて根拠を問うことはしません。しかし、子供たちは自然と既習事項や生活経験をもとに予想します。その後、資料を使って確認することで自分の予想と比較しながら資料を読み取り、読み取ったことについての根拠を考えることができました。

2 みんなで意見を練り上げる

- ①子供の表情やつぶやきを観察し、拾う
- ②土台となる考えをもとにみんなで練り上げる
- ③問い合わせすることで意見をつなぐ

5年生社会科小単元「これからの工業生産とわたしたち」の単元を通して授業づくりについて考えました。社会科における深い学びを実現するためには、

①教師、子供ともにその単元や1時間で何を学ぶかを明確に持つておくこと（焦点化）

②ねらいを達成するために効果的に視覚的情報を活用すること（視覚化）

③ねらいに向かう対話的な学びを充実させること（共有化）

上記の3つの手立てを関連させながらとることが大切です。

また、すべての教科において、問い合わせや発問の工夫をすること、振り返りを効果的に取り入れること、子供理解を深めることなど教師の授業構想やコーディネートが重要となります。

今年度の研究を終えて…

この1年間、授業研究を進めるにあたり多くの学校、先生方に大変お世話になりました。本当にありがとうございました。それぞれが学んだことを今後も嶺南地区の各学校に還元していきたいと思います。

お問い合わせ先 … 嶺南教育事務所 研修課 (0770-56-1302)